

令和5年度 多摩市立大松台小学校 学校評価書

学校教育目標	
人権尊重の精神を基調とし、豊かな感性を育み、生涯にわたって自ら学び続ける態度と能力の基礎を養う ○進んで学ぶ子 ◎思いやりのある子 ○たくましい子	
目指す学校像(学校経営ビジョン)	
「すべての児童が幸せな学校」 メッセージ『え・が・お・の・な・か・ま』 えがおの・がっこう・おおまつだいのびのび・なかよく・かかわり・まなぶ	
目指す子供像	目指す教師像
・自ら学び、挑み、課題を追求していく子 ・自他を大切にし、多様な価値を受容する子 ・粘り強く取り組む子	・「子供の幸せのため」を判断基準とする教師 ・日々の授業を省察し、「子供から学ぶ」ことを厭わない教師 ・協働的に教育活動を展開する同僚性の高い教師

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	○児童が主体的・対話的に学ぶ授業改善に取り組む ○持続発展可能な社会の一員としての意識情勢と行動力の育成			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
児童アンケートで「自分から学習に取り組む」への肯定的評価を85%以上にする。	3	保護者・児童共に、前期より後期の肯定的な回答の割合が増えている。校内研究の中で、ICTを活用した授業の取り組みを行ってきた成果が表れていると感じている。今後も継続して、個別最適な学びと主体的・協働的な学びにつながる指導の方法について研鑽していく。	A	・新しいことを学び、分からないことを自分で調べて理解する楽しさを、先生方には教えていただけていると感じます。
児童アンケートで「授業はわかりやすい」への肯定的評価を95%以上にする。	4	保護者・児童の概ね9割以上の方が満足しており、教職員の努力の成果が表れている。	A	・「授業がわかりやすい」との肯定的評価が非常に高いのは教職員の方々のご尽力の賜物だと思います。
全児童が「SDGs」の基礎を理解する。身近な生活と関連付け、80%以上の児童が興味関心をもつ。	3	環境教育は生活科及び総合的な学習の時間で、実施している。また、保護者にも取り組みが伝わるように、次年度の学習発表会は、演劇発表のみにとられず、学習の成果発表の場として位置付けていく。また、保護者と協働した取組ができればと考えている。	A	・ICTや英語は多くの先生にとり、新しい分野と思われるので、多面的に取組をお願いしたい。

(2) 豊かな心の育成

重点目標	○いじめや不登校への早期発見と迅速で組織的な対応を進める。 ○思いやりの心の育成と自己肯定感を高める具体的活動を充実させる。			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
いじめ防止対策委員会の機能を高め、迅速で組織的な対応により「重大事態0」を目指す。	4	今年度、いじめ対応に関するフローチャートを作成し、役割分担をしながらチームで対応してきた。今後もいじめの可能性に気づき、すぐに報告、聞き取り担当を決め、組織で事実確認を行う。今後もこの流れを徹底する。また、児童にSOSの出し方に関する教育を更に進め、早期のいじめ発見に努めていく。	A	・いじめやいじめの可能性のある事案について、ここまでしっかりマニュアル化されていること、担任の先生だけでなくチームでスピーディーな対応をしてくださっていることは、学校運営協議会委員になり知りました。保護者にも周知することで、安心する方も多いと思いました。
全児童がキャリアパスポートに取り組む。90%以上の児童が自己の成長、変容を実感する。	3	たてわり班活動では、6年生を中心に、様々な学年の児童が楽しめる遊びを通して、自主性や協力する態度、思いやりの心を育成している。キャリアパスポート等を活用した活動の振り返りからは、自己の成長や変容を実感している児童は多い。	A	・よい仕組みができています。いじめ対応について対応している旨の説明は受けたが、フローチャートの内容は実態などが分からないので、評価がしづらい。
特別支援教室への理解啓発を促す活動を全学年、年1回以上行う。	3	1・3・5年生は特別支援教室での授業の一部を体験させながら、教室での学びについて、伝えてきた。どの児童にとっても身近な場所になりつつある。	A	

(3) 健やかな体の育成

重点目標	○すべての教育活動を通じて、児童の身体的活動の活性化と体力向上を図る。 ○目標をもって、身体的活動に取り組む態度を育成する。			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
「運動従事量 60%以上」を確保した体育科の授業実践を全学級で取り組む。	3	児童が主体的に運動に取り組むよう、場の設定を考えたり、感覚づくりの運動を取り入れたりすることで、運動量の確保した授業をすることができている。	A	・縄跳び週間や長縄週間など、児童が目標を目指して運動に取り組むことを楽しめるよう、工夫していただいていると思います。
すべての教育活動を通じて90%以上の児童が進んで外遊びや運動に親しむようにする。	3	感染症が収まりつつあることから、友達とできる遊びや運動の幅が広がっている。体育的行事や学級・たてわり遊びの時間などを活用しながら、気持ちよく運動に取り組めるように教員から声かけをしていく。	A	・休み時間の使い方について、外遊び優先ではなく、体を休める、次の行動の準備をするなど、児童一人一人の一日学校生活を過ごさる力を育てる時間にしてはどうか。
感染予防、免疫力向上、生活リズムを意識した生活を90%以上の児童(家庭)が実践する。	3	手洗いや咳エチケット等の感染予防の基本的行動は身に付いている児童が多い。学年があがるにつれて、生活リズムが乱れる児童が増えているため、実態に合わせた保健指導を実施した。	A	

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	○学校運営協議会を中心とした連携・協働活動の充実を図る。 ○保護者・地域との情報共有に努め、コロナ禍後の学校運営を前進させる。			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
保護者や地域、関係機関の協力による教育活動を全学年で年1回以上実践する。	3	保護者・地域との協働活動が増えている。 1年:昔遊び、栽培 2年:地域めぐり 3年:からきだの道 5年:西公園 稲作 4年・6年:社会福祉協議会他	A	・自分たちの住んでいる地域のことを校外で学習できているのは大変よい取組だと思っています。地域をより身近に感じるよい機会になっていると思います。 ・保護者や地域との活動が増えてきており、よいことだと思います。児童館でもお手伝いできることがあるようでしたら、お声掛けください。
「教育活動の情報発信」について、保護者からの肯定的評価95%以上を継続する。	3	○計画を立てやすくするため「各月の行事予定のページ」を1月より早く配信した。学年便り、学校便りのお知らせの部分はこれまで通り、月末に配信する。 ○オンライン保護者会等については、Meetコードを配信して使用することは、可能と市から返答があり、来年度試行していく。	A	
鶴牧中学校区及び就学前施設との連携や協働した取り組みを学期に1回以上行う。	3	○小中連携研修会(教職員) ○鶴牧中学校 授業体験(6年) ○鶴牧中学校合唱見学(5年) ○いもほり体験(りすの木保育園) ○中学入学説明会、部活動見学(6年)	A	

以上のとおり報告いたします。

令和6年2月10日

多摩市立大松台小学校 校長

森田 康之

公印



多摩市立大松台小学校